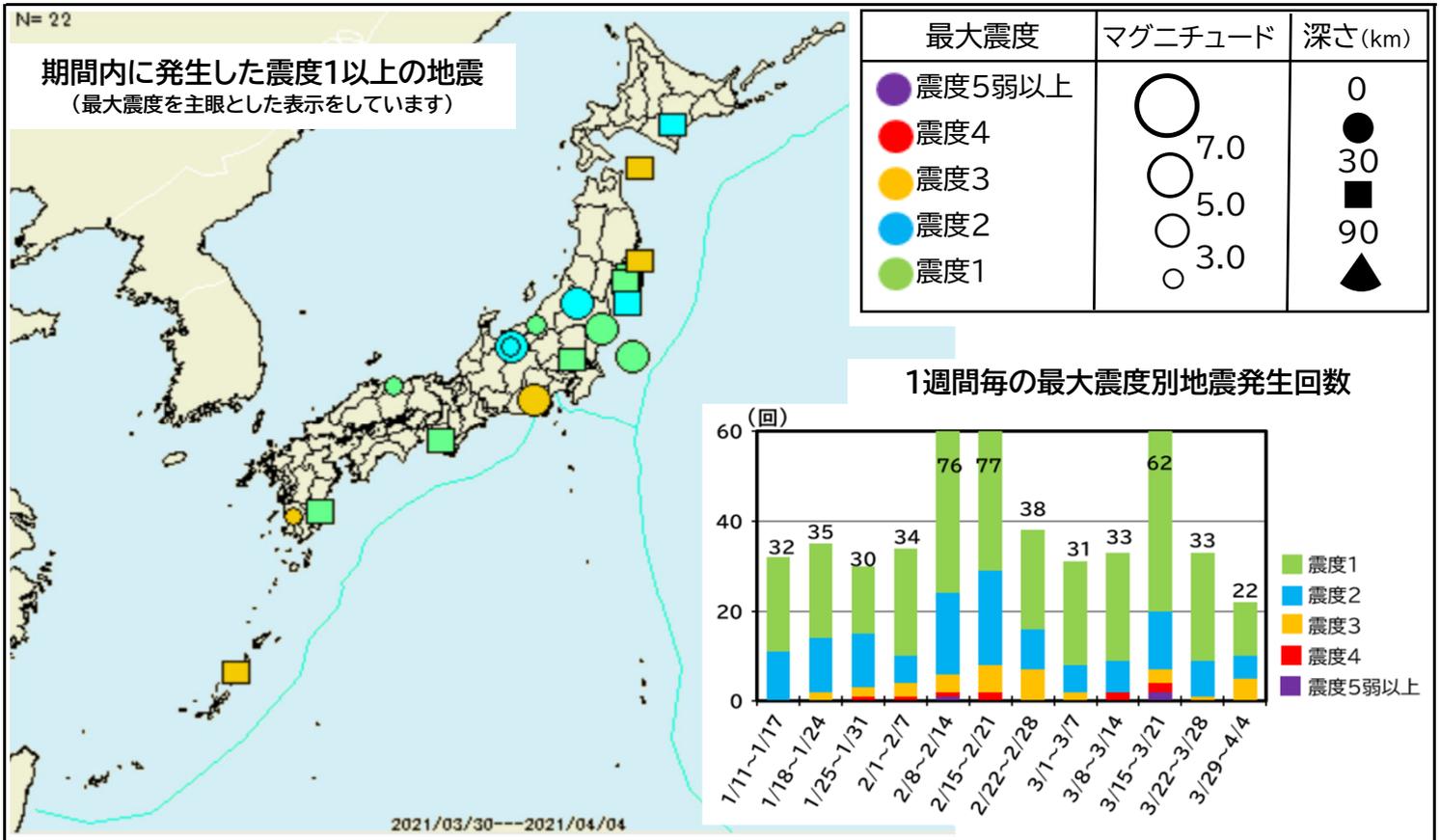


この期間の最大震度は3

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況

- この期間、震度1以上の地震が22回発生。最大震度は3。■
- ・31日03時08分に駿河湾で発生した地震(M3.9、深さ25km)により、静岡県静岡市で震度3を観測したほか、神奈川県、山梨県、静岡県で震度2~1を観測。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した逆断層型。この近辺でM3を超える地震は少ない。
- ・2日06時38分に鹿児島県薩摩地方で発生した地震(M2.8、深さ8km)により、鹿児島県鹿児島市、始良市で震度3を観測。この近辺の地震活動は低調な所。足元の浅い所(地殻内)で発生した地震のため、Mのわりに大きな震度が観測された。

トピックス

■ 東北地方太平洋沖地震 “余震”の表現使わず ■

- ・気象庁は10年前に発生した東北地方太平洋沖地震の影響で地震活動が活発になった南北600キロ、東西350キロの領域を“暫定的に余震域”と定めた。
- ・その余震域内で発生した規模の大きな地震を、“東北地方太平洋沖地震の”余震”として注意を呼び掛けてきた。
- ・しかし、気象庁は以下の理由で今後“余震”の表現を使わないこととした。
- ・余震域の地震の回数は年々減少していて、1年間の1か月ごとの平均値は東北地方太平洋沖地震発生前の10年間の1か月ごとの平均値に近づいてきており、発生した個々の地震について、余震か否かの判断が難しくなってきた。
- ・政府の地震調査委員会は、東北から関東の沖合にかけての「日本海溝」沿いでは、M7から7.5程度の地震が今後30年以内に最大で90%程度以上の確率で発生すると評価している。
- ・「余震」という表現は、大きな地震は起きないという印象を与えるおそれがあり、防災意識の低下につながるおそれがある。このようなことから、今後“余震”の表現を使わないこととした。
- ・余震であるかどうかに関係なく、日頃から大きな地震や津波に対する備えを考慮しておくことが大切です。
- ・ちなみに、図は“余震”の発生状況(2011/3/11~2021/3/31)で、緑色の四角は今後使わないことにした“暫定的な余震域”、橙色の線は東北地方太平洋沖地震発生から3カ月間に発生した余震の範囲。

